

●事業名

和歌山大学プロデュース・ 和歌山グルメイベント「胸キュン!きのくに」

●主催 阪神梅田本店

●実施内容

2022年9月21日～29日、阪神梅田本店1階・食祭テラスで開催された和歌山グルメイベント「胸キュン!きのくに」を学生とともにKii-Plusがプロデュースした。

食祭テラスとは、阪神梅田本店のリニューアルで誕生した食の新感覚イベントスペースである。ある分野に情熱を燃やす食のプロ（＝スーパープレゼンター）が週替わりで登場し、独自の視点で食の魅力を伝えている。

同百貨店でバイヤーとして勤務する本学卒業生が2021年9月、この「食祭テラス」で和歌山グルメの企画を本学と一緒にできないかと相談に来られたことをきっかけに、事業として展開することとなった。スーパープレゼンターを学生（+教職員）として、イベントコンセプトや出店候補者の提案のほか、商品知識の習得を目的とした事前学習や出店依頼も行って選んだ「和大学生セレクト商品」約70種の販売、地域との連携による和歌山のPRなどを行った。

<主な活動>

月日	活動場所	話題提供者等	参加人数
2022年5月10日	和大 (Kii-Labo)	キックオフミーティング	8人
2022年5月31日	和大 (Kii-Labo)	和大学生セレクト商品選定ワークショップ	15人
2022年7月21日	田辺市 湯浅町	エンプラスで商品学習 ロケ 湯浅醤油蔵見学 ロケ	3人
2022年7月22日	海南市 和大	黒沢牧場 放牧体験等 ロケ 学内撮影	8人
2022年9月7日・9日	阪神梅田本店	入店研修	18人
2022年9月20日	阪神梅田本店	品出し・出店準備	11人
2022年9月21日～29日	阪神梅田本店	食祭テラスでの和歌山県産品販売・イベント	24人
2022年11月14日	和大 (Kii-Labo)	振り返り会	14人



▲黒沢牧場でのロケ



▲玉林園での実習



▲食祭テラスでの商品販売



◀Kii-Plusのコーディネーターで金剛峯寺より来られた僧侶たちによる声明

事業に関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jpURL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/regionalpj/>

● 事業名

地域と大学を繋ぐコーディネーターのための 研究実践セミナー

● 主催 和歌山大学

● 後援 NPO法人地域連携活動支援フォーラム

● 実施内容

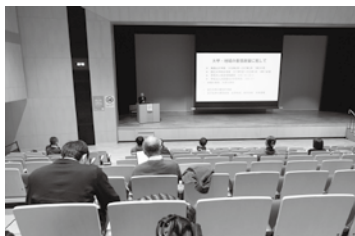
2022年12月10日～11日の2日間「第10回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー#4」を、北海道恵庭市で開催した。今回は北海道文教大学に会場提供いただいた。

本セミナーは、全国の大学における地域連携コーディネーターや地域連携担当教職員が一堂に集い、地域と大学を繋ぐ上での課題や解決方法の共有、コーディネーターの仕事の意義や役割、今後の展望について合宿型で語り合うセミナーである。本年度は、昨年度新型コロナウイルスの影響で延期していた10周年記念「地域連携コーディネーターの10年再考」の4回目を開催した。セミナーには、北は北海道から南は福岡県まで、本学を含めて延べ19大学、23人が参加した。

第4回は地域連携経験がおおむね1～3年の初任者が集まり、「コーディネーターのミッションを考える」をテーマに、大学と地域が連携する意義や、ケーススタディを通じて具体的な地域と大学を繋ぐ方法論などを議論した。一連のプログラムは2021年11月に行った第1回で、ベテランコーディネーターらが構築したもので、1年ごしの実施となった。また、同セミナーでは3年ぶりの合宿型研修となった。

1日目は大阪観光大学理事長で和歌山大学顧問の山本健慈氏より、「なぜ大学地域連携が大切なのか」という原論について講演いただいた。その後、本学紀伊半島価値共創基幹の西川一弘が、大学地域連携の歴史的な背景について講演し、2つの講演を通してあらためて「大学地域連携」の意義について考えた。講演後、参加者は事前に指定されたグループに分かれ、2日間にわたるグループワークに取り組んだ。グループワーク①では、自学の地域連携におけるミッションや理念、それにとまなう自分の業務等について、グループメンバーに話をする中で、自学の地域連携について理解を深めた。グループワーク②では、グループを一つの仮想大学の地域連携センターと見立てて、地域から持ち込まれる案件に対して、どのように対応するかを議論した。続くグループワーク③では、②で出した案件対応方法を振り返り、富山県立大学地域協働支援室の神村佑氏と甲南大学地域連携センターの松下賢一氏から助言をいただきながら、地域連携における心構えなどを学び合った。

1日目終了後は、北広島市の「札幌北広島クラッセホテル」に移動し、恒例の情報交流・懇親会を開いた。コロナ禍で会食等が減る中、感染対策をしながらではあったが、全国各地から持ち寄ったお土産を交換したり、情報交換したりして親睦を深めた。



山本健慈氏の基調講演



熱心に議論する参加者



2日間にわたったグループワーク

事業に関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : cd-net@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : http://cd-network.com/



● 事業名

第2回 和歌山県由良町地域課題解決型 事業活動プランコンテスト（ゆらコン）

- 主催 由良町
- 主管 和歌山大学

● 実施内容

2021年度に引き続き、和歌山県の由良町と連携し地域課題解決をテーマとした事業活動プランコンテスト（2022年度よりコンテストの愛称を「ゆらコン」とする）を実施した。人口減少と更なる高齢化が進行し、地場産業を活性化し安定した雇用創出・地域経済の浮揚が由良町の大きな課題となっている中、「若い学生のアイデアを広く募集し課題解決につなげていく」という目的で開催した。詳細は下記のとおりである。

1. 応募資格：全国の大学・大学院・高専・専門学校生（個人または5人までのチーム）
2. 一次書類審査：エントリー数14件のうち10チームが一次審査を通過
3. 最終審査会：2023年1月21日（土）にオンライン開催

審査委員	由良町長	山名 実
	由良町観光協会 会長	東 宏美
	由良町商工会 会長	濱出 吉高
	紀陽銀行 地方創生推進室長	大橋 一喜
	島根県立大学人間文化学部 准教授	竹田 茉耶
	和歌山大学経済学部 教授	柳 到亨

※敬称略



2023.1.21 最終審査会参加者の記念撮影

4. 表彰式 最終審査会同日、最優秀賞1プラン、優秀賞4プランを選出し、由良町が表彰を行った。

最優秀賞	旅館の味から由良町を知る！-由良町産軽食の販売-	奈良県立大学：平林 里那
優秀賞	廃校を利用したダンス競技合宿誘致事業	チーム 大阪公立大学圓丸ゼミ 大阪公立大学：渡部、上杉、志村、竹國
	由良町ぎゅぎゅっと！お弁当作りツアー	チーム しおむすび 和歌山大学：岡崎、慶応義塾大学：関口
	水上アスレチック in 由良	チーム FIFISH 和歌山大学：大城、岸本
	さあ由良町へ！空き家スタンプラリー！	チーム ゆらりん 南山大学：野村、中澤

※敬称略

5. ゆらコン スタートアップセミナー「起業のカたちは1つじゃない 起業へのファーストアクション」

審査会終了後のプログラムとして、様々な方のご支援を頂きながら学生たちのプランを実現に向けてブラッシュアップしていく“ゆらコン スタートアップセミナー「起業のカたちは1つじゃない 起業へのファーストアクション」”を、由良町で開催した。ゆらコンの最終審査に進出した学生の中で、希望する学生を対象とし6人の学生が参加した。

日程：2023年2月25日（土）～26日（日） / 会場：興国寺・平佐館

講師：和歌山大学アントレプレナーシップマネージャー 中川 貴照

ゲスト講師：・株式会社EveryBuddy 松本 恵氏・大橋 優也氏

・株式会社日本ユニスト 大崎 庸平氏

・Senobi： 橋本 美奈氏



事業に関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/regionalpj/yuraindex.html>

● 事業名

日高町の活性化をテーマとした地域と大学の共創型連携事業 「日高町活性化プランづくりプロジェクト」

● 実施内容

和歌山県日高町は新型コロナウイルス感染症の影響で「産湯海水浴場」は中止を余儀なくされ、日高町直営の「温泉館みちしおの湯」の客数は2022年度当初の時点では最盛期の約半数にとどまっていた。日高町と和歌山大学は観光による再活性化をテーマに、教員指導のもと学生が町職員や地域ステークホルダーと共に継続的なワークショップを実施し、4つのプランを提案した。

<指導教員> 和歌山大学 経済学部 准教授 藤田 和史 / 参画学生 第72期 藤田ゼミ3回生 16人

<事業の流れ>

1. データ収集……人口・世帯数の推移、観光客入込客数、温泉館客数、町民アンケート調査結果等
2. 現地視察……2022年9月5日・6日
3. ワークショップ…2022年10月22日/11月23日/2023年2月11日
4. プラン発表会……2023年2月11日

4つのプラン
キッチンカーイベントの開催による「みちしおの湯」の認知度UP
「みちしおの湯」の付加価値・話題性をUPする
「みちしおの湯×天文イベント」と「観光スポットめぐり（ツーリング）」
グランピングを通して日高町の魅力を知ってもらう
みんなで作る海の家-通年プラン- 海の家×釣り×カフェ



プロジェクトの集合写真

● 事業名

コロナ禍における沿線活性化モデル 「ご近所観光」共創事業

● 実施内容

南海電気鉄道株式会社和歌山事務所と和歌山大学Kii-Plusの共催で、地域資源を掘り起こし地域の魅力発信につながる「コロナ禍における沿線活性化モデル」として、感染症対策（検温実施・マスク着用・三密回避）を徹底し、長時間にらず現地集合・現地解散を基本とした「ご近所観光」ツアーを実施した（2020年度から実施。2022年度は計42回、参加人数延べ541人）。「ご近所観光」は地域資源の価値への共感がベースになっており、企画者・参加者・案内人の距離感が近く、双方向のコミュニケーションを重視した形で構成されている。本学学生の企画によるツアーも実施し、学生への事後ヒアリング調査も行っている。



※左：2021年度実施「和歌山が誇る「知の巨人」南方熊楠の暮らしをたどろう」の企画学生（江口 創紀さん）へのヒアリングの様子。中央：2022年度実施「世のため人のため地域のためにつくした医聖・華岡青洲」の企画学生（田中 悠葉さん）へのヒアリングの様子。右：2023年3月19日実施「和歌山 黎明期の近代化遺産ウォーキングツアー」の様子。

事業に関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/regionalpj/>



● 事業名

半島地域における交流・協働の 拠点づくりを考える(半島フォーラム)

● 実施内容

本フォーラムは、全国国立大学生涯学習系センター研究協議会での研究交流等を通じて、共通の問題関心を共有してきた静岡大学の呼びかけで、2020年度から開催し、今年度で3回目を迎えた。

伊豆半島・紀伊半島という半島地域を有する静岡・和歌山両県では、特に半島先端部で過疎化・少子高齢化が進行しているが、それぞれ地域固有の資源を活かし、地域が抱える課題の解決をはかる多様な活動が行われてきている。望ましい地域・くらしのあり方に近づくために、それぞれの取り組み事例に学び、情報共有や連携をはかりながら、地域づくりの拠点を構築することが求められている。本フォーラムでは、伊豆半島と紀伊半島で展開するさまざまな地域課題に対する取り組み、地域と大学の新たな連携・協働の事例に学び、交流・協働のためのプラットフォームのあり方を検討する。

今年度は静岡県内の大学の地域連携拠点でもある下田総合庁舎（静岡県下田市）での対面とオンラインによるハイブリッドで開催し、本学からは、伊東千尋学長（基幹長）が「紀伊半島価値共創基幹（Kii-Plus）を中核とする多面的地域展開」、吉村旭輝（紀州経済史文化史研究所）が「紀伊半島の歴史・文化を活かした地域と大学の連携」について報告。後半には静岡大学理事（教育・附属学校園担当）・未来社会デザイン機構長の塩尻信義氏、同大学専任講師・内山智尋氏とともにパネルディスカッションを行ったほか、鹿児島県諸島部の地域課題にコミットし、リカレント教育を進めている小栗有子（鹿児島大学法文学部准教授）よりコメントをいただいた。

主催：静岡大学 共催：和歌山大学
 日時：2023年2月19日（日） 14:00～17:15
 会場：下田総合庁舎およびオンライン
 参加者：20人

静岡大学 × 和歌山大学 研究フォーラム

半島地域における交流・協働の 拠点づくりを考える

様々な場所で、地域固有の資源を活かし、地域が抱える課題の解決をはかる多様な活動が行われてきています。望ましい地域・くらしのあり方に近づくために、それぞれの取り組み事例に学び、情報共有や連携をはかりながら、持続的な地域づくりの拠点・プラットフォームを構築し、継承することが求められています。

本フォーラムでは、伊豆半島と紀伊半島で展開する様々な地域課題に対する取り組み、地域と大学の新たな連携・協働の事例に学びながら、人々が行き交い、継続的に関わる拠点・プラットフォームのあり方を検討します。

**2023
2.19日**
14:00～17:15(予定)

開催方法 下田総合庁舎(対面会場)と
オンラインのハイブリッド開催
※下田総合庁舎：〒410-0831

対 象 一般市民、大学関係者

開催会場 40名(先着順)

参加無料・要事前申込

【参加申込】
QRコードまたはURLから、
2月14日(火)までにお申込み
ください。

<https://forms.gle/nmwnAU2cVqH8ov4fA>

静岡大学未来社会デザイン機構
事務局(静岡大学総合学術情報センター) 事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大宮3-30 TEL:054-438-4055
E: info@future.sizuoka.ac.jp

主催 国立大学法人 静岡大学
共催 国立大学法人 和歌山大学

プログラム

開 会	14:00～14:05
開会挨拶	静岡大学長 日誌 一幸
第1部：報告	14:05～15:40
報告1 「静岡大学未来社会デザイン機構の展開」	静岡大学理事(教育・附属学校園担当)・未来社会デザイン機構長 塩尻 信義
報告2 「紀伊半島価値共創基幹(Kii-Plus)を中核とする多面的地域展開」	和歌山大学長、紀伊半島価値共創基幹長 伊東 千尋
報告3 「東部サテライトを拠点にした取り組みと今後の展開」	静岡大学未来社会デザイン機構・専任講師 内山 智尋
報告4 「紀伊半島の歴史・文化を活かした地域と大学の連携」	和歌山大学紀州経済史文化史研究所・准教授 吉村 旭輝
— 休 憩 —	
第2部：パネルディスカッション	15:50～17:10
パネリスト	上記報告者
モデレーター	鹿児島大学文学部・准教授 小栗 有子
コーディネーター	和歌山大学地域連携センター長 阿部 耕也
閉 会	17:10～17:15
閉会挨拶	静岡大学未来社会デザイン機構・機構長 内沢 晋郎

図1. 開催チラシ

● 事業名

つなぐプロジェクト

● 実施内容

和歌山大学と泉大津市の協働によって開始された本事業も、2016年度の事業開始から2022年度で7年目を迎えた。当初「体験教育旅行&夏学習」として始まった本事業は、これまでコロナ禍による影響を受けつつも、所管部局や活動形態を変えながら、昨年2021年度からは「つなぐプロジェクト」として現在に至っている。昨年度は学生による教材作成に特化した事業も、今期2022年度は、2年ぶりに小学生のキャンプ事業を再開することができ、「日帰り」ではあったものの、今後につながる成果を上げることが出来た。2022年度事業に関する実施データは以下の通りである。



種別	日程	場所	児童人数	学生人数
事前学習会	8月3日(水)	テクスピア大阪	26	10
わくわくデイキャンプ	8月24日(水)	日高川町	29	13
事後学習会	9月7日(水)	テクスピア大阪	10	4

事業の全体像については別途報告書（学生の編集による）をご参照いただきたい。なお、2023年度に向けて新たなプロジェクトも既に動き始めており、今後の更なる発展を期したい。

● 事業名

地方国立大学改革シンポジウム ～地方国立大学の価値を共に考える～

● 実施内容

「地方における新たな国立大学像」を提起・実践する地方国立大学長をお招きして、地方創生に資するための新しい取組の共有とともに、条件整備や社会的インパクト評価の在り方について共に考えるシンポジウムを、2023年1月23日（月）に開催した。テーマは「地方創生に資するキラリと光る国立大学の実現」である。地方国立大学が抱える課題や実情について、都市圏の方々に直接知っていただくために、あえて東京を会場にした。ライブ配信・アーカイブ配信にも対応し、当日は対面約100人、ライブ配信360人の参加をいただくとともに、アーカイブ配信の再生回数は約750回となる等、非常に関心の高いシンポジウムとなった。

当日はゲスト大学である愛媛大学、高知大学、三重大学に加え、本学の学長がそれぞれの大学における地方創生に資する特色ある取組等について紹介するとともに、地方国立大学に求められる役割等について、基調講演を行った。シンポジウム後半では、「地方国立大学における新取組に向けた条件整備と社会的インパクト」と題して、パネルディスカッションを行い、4大学共にそれぞれの地域課題や地域の実情を踏まえた取組を推進する中で、「地域との共創」や「産官学連携」等、共通の課題を抱えながらも、地方国立大学として社会に貢献していく施策等について、意見交換が行われた。



事業に関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/regionalpj/>

